

- 1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
- 3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
- 4. 明日の彦根市を担う人を育むまちづくり
- 5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

芹川の並木を見つめ直す



歴史ある景観のもたらすびらき

芹川の並木を見つめ直す

彦根城築城以来の歴史を持つと言われる芹川の並木。近年、その樹々の衰えが目立ち、市民の皆さんから心配する声が上がっています。

私たち彦根市民にとって、芹川の並木はどんな意味を持つのでしょうか。芹川並木の置かれた現状を見つめ直すとともに、その価値について改めて考えてみましょう。

市街地の中に豊かな自然をはぐくむ並木

市街地の中心を流れる芹川は、多くの市民にとって身近な存在です。季節の移り変わりとともにさまざまな景観を見せる並木を楽しみにしている人もたくさんいることでしょう。

その芹川の並木について、自然環境の面からみた大切さについて、「快適環境づくりをすすめる会」理事の平松光三さん(中敷町)に聞きました。

彦根に城下町ができる前の芹川は、現在より北を流れ、松原内湖に注いでいました。今の芹川の位置には、本流から枝分かれした支流が流れていたそうです。約400年前、彦根



平松さん

城が築城され、城下町が整備されたときに、芹川は現在の河道に付け替えられました。

「芹川けやき並木」として知られる現在の芹川堤の並木には、その当時植えられた樹木が残っています。当初植えられたのは、ケヤキ、エノ

キ、アキニレなどで、樹の根によって堤をより丈夫にしようとして植えられたと考えられます。

ところで、ケヤキ、エノキなどは、もともと湖東平野に広く分布する樹種です。植えられた樹なのに、自然に溶け込んでいたのは、風土に適した樹種が植えられた結果です。現在は、樹齢からみてそれより後に植えられたサクラとも調和した、親しみのある自然景観をもたらしています。

ところで重要なのは、芹川のせせらぎと堤にあるこれらの樹木を含めた芹川全体が、多様な生物が生息する空間(ビオトープ)を形成しているということ。自然の生物が生息しにくい市街地の中に、このような豊かな自然環境が存在しているということ。

また、この自然の空間が、芹川の流れて沿って鈴鹿の山々からびわ湖へとつながっていることにより、野鳥をはじめとする多くの生物の通り道となっています。芹川周辺の住宅街にも、通常は都市部には見られないメジロやシジュウカラ、ウグイスなどの小鳥たちがやってくるのはそのためです。

芹川並木にはエノキやムクノキなど実のなる樹木が多いことも、小鳥たちが多く見られる理由の一つです。樹齢300年を超える大木が感じさせてくれるのは、彦根市の歴史的な風土ともまた調和しています。ところが近年、芹川を流れる水は汚れ、芹川並木も一部で樹勢の衰えが見られます。これらは、自然からの叫び声ではないでしょうか。

生物たちにとってすばらしい自然環境は、私たち人間にとっても大切なものです。私たちに潤いを与えてくれている芹川や並木のつくる豊かな自然を次の世代に残していきたい、永く市民に愛され続ける場所として守り続けていきたいと願っています。

このままでは危ない！ 衰弱の進む樹々

人間の生活に安らぎと潤いを与え、市民から愛されている芹川の並木ですが、最近、樹々の多くが衰弱していることが心配されています。

昨年、市の依頼で芹川並木を調査した樹木医の川崎昭重さん(平田町)に、並木の現状を聞きました。

樹木には厳しい芹川の堤

芹川並木が次第に衰弱していく様子は、以前から気になっていました。調査の結果は想像以上の衰弱で、たいへん驚いています。

彦根城築城時に植えられたと思われる、推定樹齢300年以上の古木は、すでに47本しかありません。ケヤキは、環境がよければ1,000年以上生きることとも言われています。芹川堤は、樹が生育するには厳しい環境なのでしょう。



根もとが埋まっているように見えるクスノキ

調査して気づいた点の一つに、変形した樹が多いことがあります。例えば、普通、樹の幹は、下が太くて上にいくほど細くなりますが、芹川並木の樹木の多くは逆です。また、枝が異常に低い位置から伸びている樹も多くあります。

これは私の想像ですが、芹川堤は防災上の観点から、嵩上げが繰り返されたのでしょう。そのため、樹の根もとは土中深く埋められ、見えていない部分が多くなっているのではないかと思います。人間で言うところ、胸から下が埋められているようなもので、そのとおりだとすると、樹の健康にはよくないですね。

枝の繁る位置が低くて自動車の通行の邪魔になるからと、昭和40年代前半に多くの樹で太い枝が切られました。その傷口から水が入って、そうした幹のほとんどが腐ってしまっています。腐朽はゆっくり進みますが、放置すればいずれ枯れてしまうでしょう。

「私たち、ずっと芹川並木ファンです。」

芹川の並木には遊歩道が整備されていて、定番の散歩コースにしている人も多いようです。特に早朝にはたくさんの市民が行き交い、常連どうしがあいさつする姿も見かけられます。

毎日散歩していても飽きません

西村みつさん(芹橋一丁目)

芹川の並木の下を、30年以上も散歩しています。春はサクラ、夏は若葉、秋は紅葉と、移りゆく季節ごとに異なる趣があり、毎日散歩していても飽きません。土手の意外なところにかわいらしい花を見つけて感激することもあります。

何百年も生きているのであろう樹々を見ていると、長いようでも人間の一生など短いのだと感じます。

芹川並木は、いろいろな恵みを与え、いろいろなことを考えさせてくれる場所ですね。



市民に愛され続ける芹川並木

小林龍一さん(銀座町)

世の中が車社会になったときに、自動車を通りやすいようにと、並木を伐採する話が出ました。結局は市民の反対でしないことになりましたが、その理由は、並木がなくなると堤が決壊しやすくなるからというものだったと記憶しています。防災上の理由が先だったのです。

現在の芹川並木は、左岸に遊歩道が整備され、毎朝たくさんの人が散歩に訪れます。鳥たちも姿を見せ、市民の身近な憩いの場になっています。並木が失われるとするなら、防災上よりも、景色が変わることを残念に思う人が多いのではないのでしょうか。芹川並木は時代によって理由を変えながら、市民に愛され続けていると感じます。





100個近くのヤドリギに寄生され、危険な状態にあるエノキ

エノキを枯らすヤドリギ

ヤドリギが最近増えていることも気になります。ヤドリギは、エノキに寄生して栄養を吸ってしまおうので、樹勢の衰えに大きく影響します。130個ものヤドリギに寄生された巨木が、最近枯れてしまいました。100個ほど寄生されていて、危険な状態にある樹も見られます。みるみる増えていくので、数年も放置すればたくさん樹が枯れてしまい、景観に大きな影響があるでしょう。芹川のサクラは春にたくさん花をつけ、芹川並木の景観を形作る主役の一つと言えるでしょう。このサクラも、多くが衰弱していて今後が懸念されます。テングス病が約1割の樹に確認され、景観に影響を与えています。芹川並木のサクラの多くは、昭和初期に植樹された推定樹齢

「並木の衰弱が心配」と話す川崎さん



50〜100年のもので、そろそろ寿命です。適切な手当てで延命を図ることも大事ですが、新たに植樹をして全体として景観を保っていく努力も必要ではないかと思えます。

人間の都合は、少し控えて

芹川左岸の堤は遊歩道として整備され、樹にも優しい環境が整っています。できれば右岸の堤でも何らかの対策がとれないものでしょうか。例えば、樹から少し舗装を離してやるだけで、ずいぶん樹は助かると思います。

芹川並木の樹々は、人間の都合でずいぶんつらい状況に置かれています。芹川は人間と樹が日常的にふれあう場なので、樹の都合をすべてに優先させるわけにはいかないでしょうが、今よりも少し、人間が遠慮した方がいいのではないかと思います。

守ります 芹川の並木

芹川けやき並木保全事業（れきし・みち修景事業）を実施

芹川けやき並木は、300年以上の長い間、彦根の歴史とともに歩んできました。幾度かの河川改修工事でも伐採されることなく残され、現在ではケヤキ、エノキ、サクラなど751本の樹々が独特の景観を形成し、広く市民に親しまれています。

しかし、近年こうした貴重な樹々の多くが衰弱し、危機的状況になっていて、並木の存続が心配される状況です。

市では、「れきし・みち修景事業」の一環として、芹川けやき並木保全事業を立ち上げ、平成12、13年度で樹木医に調査を依頼し、報告を受けました。

今回の特集で紹介したように、調査の結果、多くの樹々で衰弱が著しく、並木全体がたいへん重症で、放置しておけない状態にあることが分かりました。

そのため、関係団体と協議し、助言を得ながら、必要な処置を今年度から実施していくことにしました。

具体的には、倒壊の危険のある樹木の伐採、エノキに寄生しているヤドリギの除去、回復の見込みのある樹木の外科処置などが考えられます。

このような保全対策は、来年度以降も毎年計画的に進めていく予定です。

芹川並木は危機的な状況ではありますが、決して手遅れではありません。適切な対応を続けることで、以前のような元気な並木に戻ることとされます。市民の皆さんのご理解をお願いします。

問い合わせ先 道路河川課22-1411(内線234) FAX24-5211

3 樹木の健全度

すべての樹木の健全度についてまとめたものが表2です。この表では、衰弱を見せている樹が3分の1ほどあるものの、全体としてはバランスのとれた健全度を見せています。これは、比較的健全な若木が全体の7割を占めているためと考えられます。また、植栽本数の最も多いサクラは、3分の1ほどが衰弱しています。推定樹齢100年以上の古木につい

4 樹木の現状

樹木の生育に関する現状についても調査しました。幹が腐つてしまい、直接見て確認できる樹木が108本(14%)みられます。そのほとんどが、たいへん激しく腐っているものでした。太い枝が切断され、傷口が口を開

けている樹木が135本(18%)もあります。開口部から腐朽が進んでいくことが心配されます。ヤドリギが寄生し、衰弱している樹木が47本(6%)みられます。ヤドリギはエノキの古木に好んで寄生するもので、近年爆発的に増殖している状況です。

サクラ76本(10%)にテングス病が発生していました。テングス病が発生した枝には花がつかなくなり、また、樹は衰弱していきま

5 衰弱に対する対策

以上のことから、芹川並木はたいへんな重症で、放置しておくこと全滅すら懸念される状況にあると言えます。今後の健全な生育を期して、適切な手当てを行うべきです。

751本をすべて調査 報告書のあらまし

ここでは、川崎さんの行った調査の結果について、そのあらましをお知らせします。

1 調査の方法

芹川並木は、びわ湖からJR琵琶湖線付近までの芹川兩岸の堤防に続いています。今回の調査では、その間にあるすべての樹木に番号を付け、樹種や幹の形、樹の大きさ、推定樹齢、幹や枝葉の状況、健全度などについて記録しました。また、すべての樹木の写真を撮り、

並木の現状が後世に残るよう配慮してあります。

2 芹川並木の構成樹木

芹川並木の樹種ごとの推定樹齢別本数は、表1のとおりです。サクラやエノキが多く、ケヤキが少ないことが分かります。また、樹齢別に見ると、100年以上の古木でもエノキが多く、ケヤキが少なくなっています。樹齢300年以上と思われる樹木はわずか47本と少ないことに驚きます。

表1 樹種ごとの推定樹齢別本数

| 樹種 | 樹齢 | | | | | 合計(本) | 割合(%) |
|------|-------|--------|---------|----------|--------|-------|-------|
| | 10年未満 | 10~50年 | 50~100年 | 100~300年 | 300年以上 | | |
| サクラ | 45 | 96 | 154 | 0 | 0 | 295 | 41 |
| エノキ | 9 | 38 | 14 | 87 | 8 | 156 | 22 |
| ケヤキ | 5 | 47 | 3 | 22 | 38 | 115 | 16 |
| アカニレ | 1 | 10 | 9 | 15 | 1 | 36 | 5 |
| ムクノキ | 0 | 0 | 2 | 17 | 0 | 19 | 3 |
| サイカチ | 0 | 0 | 2 | 15 | 0 | 17 | 2 |
| スギ | 0 | 17 | 0 | 0 | 0 | 17 | 2 |
| その他 | 62 | 13 | 19 | 2 | 0 | 68 | 9 |
| 計 | 122 | 221 | 203 | 158 | 47 | 751 | 100 |

表2 樹木の健全度 (単位:本)

| 区分 | 健全度 | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|----|
| | 健全 | ほぼ健全 | 中庸 | かなり衰弱 | 衰弱 | |
| 樹木全体 | 144 (19%) | 119 (16%) | 242 (32%) | 189 (25%) | 57 (8%) | |
| サクラ | 66 (22%) | 48 (16%) | 84 (29%) | 73 (25%) | 24 (8%) | |
| 古木(樹齢100年以上) | エノキ | 0 | 7 | 29 | 43 | 17 |
| | ケヤキ | 0 | 11 | 14 | 23 | 3 |
| | アキニレ | 1 | 2 | 3 | 9 | 5 |
| | ムクノキ | 1 | 2 | 6 | 6 | 3 |
| | その他 | 0 | 1 | 9 | 5 | 5 |